垂直ブリッジマン法により育成した Al₂O₃/YAG:Ce-MGC の微細組織

Microstructure of VB-Grown Al₂O₃/YAG:Ce-MGC

 O山田聖也 ¹、大葉悦子 ¹、太子敏則 ¹、干川圭吾 ¹、吉村正文 ²、坂田信一 ²

 (1. 信州大学・工学部、2. 宇部興産・無機機能材料研究所)

°Seiya Yamada¹, Etsuko Ohba¹, Toshinori Taishi¹, Keigo Hoshikawa¹,

Masafumi Yoshimura^{1,2}, Shinichi Sakata² (1. Shinshu Uni., 2. I.S.P.Lab. Ube Industries Ltd.) E-mail: khoshi1@shinshu-u.ac.jp

はじめに

 $Al_2O_3/YAG:$ Ce-Melt Growth Composite(MGC)は、高輝度白色 LED の青-白変換材料として開発された共晶体である ^{1,2)}。我々は育成制御が容易で結晶の大形化が見込まれる垂直ブリッジマン (Vertical Bridgman: VB)法による $Al_2O_3/YAG:$ Ce-MGC 成長において、Mo るつぼの再利用 ³⁾や成長方位制御 ⁴⁾が可能であることを報告した。さらに、光変換材料に Ce を高濃度 (1~数%) に添加した場合の $Al_2O_3/YAG:$ Ce-MGC の成長条件と微細組織の関係について検討している ⁵⁾。今回、成長速度に依存して、微細組織を分断するように発生するマクロサイズの不均一構造(コロニー構造の形成)の実体とその発生機構について報告する。

実験方法

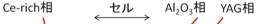
 $Al_2O_3/YAG:$ Ce-MGC の育成は、カーボン発熱体を用いた高周波加熱結晶育成装置にて Mo 製る つぼ底に種子結晶、焼結体原料を充填し VB 法で育成した。原料は $Al_2O_3:$ 80mol% $/(Y_{1-x}Ce_x)_3Al_5O_{12}:$ 20mol%の組成比の焼結体を用いた。成長条件として、るつぼ移動速度および Y/Ce 比をパラメータとした。成長した $Al_2O_3/YAG:$ Ce-MGC は、成長方向に平行および垂直に試料を切断し、鏡面研磨後に光学顕微鏡および SEM により観察した。

結果と考察

 Al_2O_3 /YAG:Ce-MGC の微細組織を特徴付ける相間隔は、Ce 添加しない Al_2O_3 /YAG-MGC と顕著な相違はなく、既報と同様 の成長速度依存性が確認された。添加元素 Ce は、組成的過冷 却を引き起こす主原因となり、セル成長が顕著になり、コロニー構造を形成した。Fig.1 に示すようにセルの境界には Ce-rich 相が確認された。そのセルの幅は、成長速度の増加に伴って狭くなる傾向があった。

参考文献

- 1) S. Sakata and Y. Waku, WO02004/065324.
- 2) T. Ishikawa, S. Sakata, and A. Mizutani, Int. J. Appl. Ceram. Technol, 3[2](2006)144-149
- 3) 吉村他, 垂直ブリッジマン(VB)法による Al_2O_3/YAG :Ce-MGC の成長(I)第 75 回(2014 秋季)応物学会予稿 20a-A17-2
- 4) 干川他, 垂直ブリッジマン(VB)法による Al_2O_3/YAG :Ce-MGC の成長(Π)第 75 回(2014 秋季)応物学会予稿 20a-A17-3
- 5) 山田他, 垂直ブリッジマン(VB)法による Al₂O₃/YAG:Ce-MGC の成長(I)成長速度と微細組織 NCCG-44 予稿 06pC03



— 100μm

Fig.1 Al₂O₃/YAG:Ce SEM 観察像